

令和2年度 推薦入試試験問題（第一部 商経学科）解答例

問1（25点）

【採点のポイント】

- ・大澤の説を適切にイソップ寓話になぞらえて説明できているか。
- ・以下の点に関して読み取れているか。
 - ① 現在の若者は「未来に期待できない」ということ。
 - ② 現在の若者は未来に希望を持ってないからこそ、現在を合理化せざるを得ないということ。
- ・論理的に記述できているか。

【解答例】

大澤真幸の説をイソップ寓話の「狐と葡萄」になぞらえると、現代の若者層は葡萄を欲しいと思ひ手に入れようとしてみたが、手に入らず諦めた狐である。ただ諦めるだけだと悔しいので、手に入らなかった葡萄は「酸っぱくてまずいに違いない」と考えている。「酸っぱくてまずいに違いない」葡萄などなくても、今ある食べ物で満足と考え、フロイト心理学で言う防衛機制の一つである合理化を行っている。（185文字）

問2（25点）

【採点のポイント】

- ・筆者の説を適切にイソップ寓話になぞらえて説明できているか。
- ・以下の点に関して読み取れているか。
 - ① 現在の若者は「未来に期待できない」からその反動として現在の幸福感が高いというわけではないということ。
 - ② 現在の若者は未来に希望をもつこと自体に最初から現実味を覚えていないということ。
- ・論理的に記述できているか。

【解答例】

課題文の筆者の説をイソップ寓話の「狐と葡萄」になぞらえると、現代の若者層は葡萄を欲しいと思わない狐である。言い換えると、現在の食べ物に満足しており、手の届かないところにある葡萄には関心すら示さない狐である。葡萄には関心すらないので、手に入らなかった葡萄は「酸っぱくてまずいに違いない」といった合理化をする必要すらない。ただ、今ある食べ物で満足と考えているのである。（182文字）

問3（50点）

【採点のポイント】

- ・課題文の分析に対する感想や意見も示しながら自分の考えを記述できているか。
- ・論理的に考えを記述できているか。

【解答例】

未来への期待は高齢層より低いという調査結果は納得できるが、生活満足度は高齢層より高いという結果は意外だった。格差が拡大し、貧困も深刻化している。本人の努力だけでそれを乗り越えることは困難で、未来への希望を失う人たちの層は確かに拡大していると思う。しかし、その若者たちが現在の生活に満足しているかという、やはり不満を持っている人は多いように思える。物質的な豊かさで見れば、戦後の貧しい時代を知っている高齢層のほうが、現在の豊かさを実感できると思う。筆者は、将来のために節約・努力するより今を楽しむ現在志向が、若者の生活の満足感に結び付いていると理解しているようだが、現在の若者にとって「人並みの生活」を維持することもそれなりに大変で、他人と比較して惨めな思いをすることもあるし、いじめや児童虐待も起こっている。また大澤真幸の説に対して、筆者は若者の犯罪率の減少という現実を挙げて批判している。しかし、若者が被害者になる事件はどうなのだろう。犯罪率と同様に減少しているのだろうか。ここでいう生活満足度というのは、「殺されないだけまし」というような満足感なのだろうか。そうだとしたら、その生活満足度は幸福感とは違って、そう思い込まなければ惨めだからという、防衛機制の一つでもあると思う。そう考えれば、大澤真幸の説も全くおかしいわけではないと思う。

(571字)